

ホクレン営農支援情報

(2021年6月号)

●透排水性・土壌物理性改善に向けた「カットブレーカー」の効果検証

《函館支所 営農支援室》

函館支所では、4月7日から27日にかけて、JA新はこだて厚沢部基幹支店の5圃場で、「カットブレーカー」（株式会社北海コーキ）施工を行いました。これは、耕盤層を含む土をV字ブロックに切断、破碎し、透排水性と通気性を改善、根の生長促進を図るものです。

同支店管内では畑作物生産が盛んですが、近年、生育期間中の長雨で排水不良となり、低収になる圃場が見られることから、その改善に向け檜山農業改良普及センター本所、ホクレン連携のもと実施しました。今年度の効果検証を踏まえ、今後、管内への普及が期待されています。なお、この実証試験は当支所のほか、札幌、岩見沢、旭川支所でも実施・計画されています。



厚沢部町（馬鈴薯作付け予定圃場）での施工の様子

●クロスブリーディング（異種交配）取り組み状況 《訓子府実証農場 畜産技術課》

訓子府実証農場では、2018年から乳牛のクロスブリーディング（異種交配）により長命

連産性などを改善させる取り組みを行っています。ホルスタイン種（HO）にモンベリアード種（MO）を交配して産まれた F1 種（雌）に、カナディアンエアシャー種（AY）または MO 種を交配しています。現在、分娩を終えた F1 種 21 頭の搾乳が始まり、乳量調査を行っています。今後はこれから F1 種から産まれた三元交配種《HO×MO×(AY か MO)》の調査にも取り組んでいきます。

なお、F1 種の体重と体高、初産乳量の経過については、アグリポート 32 号（8 月発刊）で紹介予定です。



分娩後の F1 種（HO×MO）

●アグリポート 31 号を発刊《営農支援推進課》

6 月 1 日にアグリポート 31 号を発刊しました。特集は「外敵から営農を守る」というタイトルで、農作物を鳥獣による被害や盗難からどう守るかをテーマとしています。

鳥獣による被害実態や、「困いわな」を使った草地でのエゾシカ捕獲や現地の活用事例、野生の鳥獣を捕まえるのに必要な免許や手続きなどの紹介や、近年、道内でも発生している盗難による被害を防ぐポイントなども紹介しています。

そのほか、みんなの取り組み広場コーナーでは、省力化を図る「水圧式ニラそぐり機」や「モバイル



牛温恵」活用事例について、「ホクレンアグリポートチャンネル」で公開中の動画も合わせて掲載しています。ぜひご覧ください。

●効果的な防除について考える時のツール《営農支援推進課》

病害虫防除がそろそろ本格化する時期です。作業に取りかかる前に、防除の基本についてあらためて確認するのはいかがでしょうか。昨年6月に発行したアグリポート25号特集では「防除を考える」として、農薬の効果的な使い方や総合的防除対策の考え方、病害虫発生予察情報の活用などについて紹介しています。参考にしてみてください。

バックナンバー アグリポート25号

特集「防除を考える」

- 農薬の種類と使用について
- 総合的な防除対策の考え方とは？
- 病害虫発生予察情報の活用法
- 残留農薬検査で分かること



発行：ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467 E-mail. einousiensuisin@hokuren.jp